

## 第4回 働き方改革 フォローアップ調査 結果概要

当協会では、会員の働き方改革の取組み状況に対し、技術系社員を中心とした長時間労働の是正に向けた取組み状況を把握するため2018年より毎年フォローアップ調査を実施している。

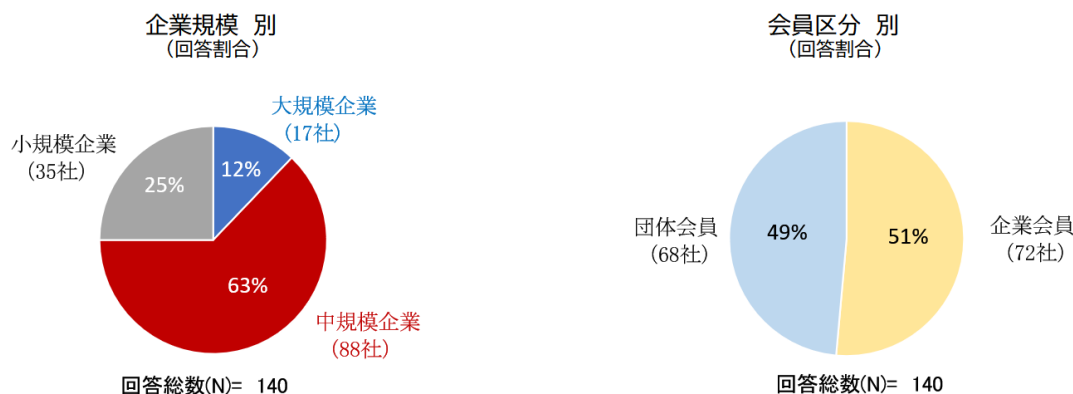
今回は1年半後(2024年度)に迫った、「建設業の時間外労働の規制適用」を見据え、会員の現状とその対応のヒントとなる参考事例を取り入れまとめた。

### 今回の調査依頼について

今回、2021年度の状況把握として2022年4~5月にかけて調査を実施しましたが、今回、コロナ禍の中であったこともあり、会員各社から回答に時間を要し、また回収率も低い結果となりましたが、企業会員72社、団体会員68社の協力のもと計140社より回答を得ました。ご協力いただいた各会員に対し、心からお礼申し上げます。

※ 今回の調査結果の詳細については、別途「第4回働き方改革フォローアップ調査集計結果」を当協会ホームページ会員専用サイトより入手可能

### 今回の回答者構成



#### ※ 企業規模別 区分の条件

| 区分      | 従業員数              | 資本金  |
|---------|-------------------|------|
| ① 大規模企業 | 301人以上            | 3億円超 |
| ② 中規模企業 | 300人以下 もしくは 3億円以下 |      |
| ③ 小規模企業 | 20人未満             | ---  |

#### 今回の区分判定方法

今回の区分判定方法は、まず③小規模企業の条件にて選定、次に②中規模企業の条件企業にて選定し、それ以外を①大規模企業として判定した。

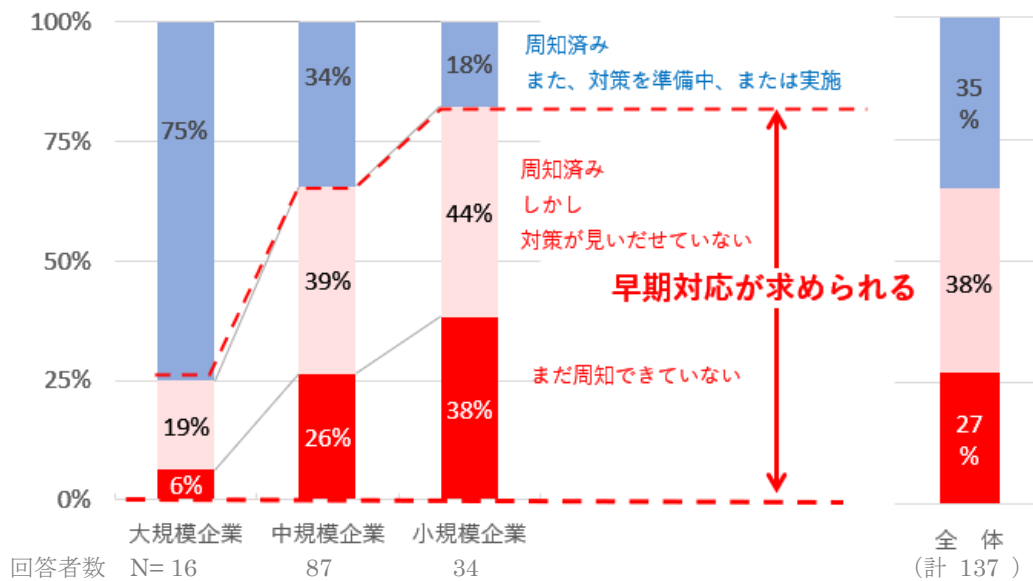
### 結果のまとめ方

当協会では企業規模に関係なく幅広い会員に加入していただいておりますが、「2024年度からの時間外労働の規制適用」に向け、経営規模による対処の差異を考慮し、今回は企業規模別に状況を示し、またいくつかの課題についての会員の取組み事例も紹介し、まとめた。

## I. 2024年度からの規制適用への準備ができているか

(問12より)

中・小規模企業の対応・準備が進んでいない。→ 対応急務である。



## II. 時間外労働 について

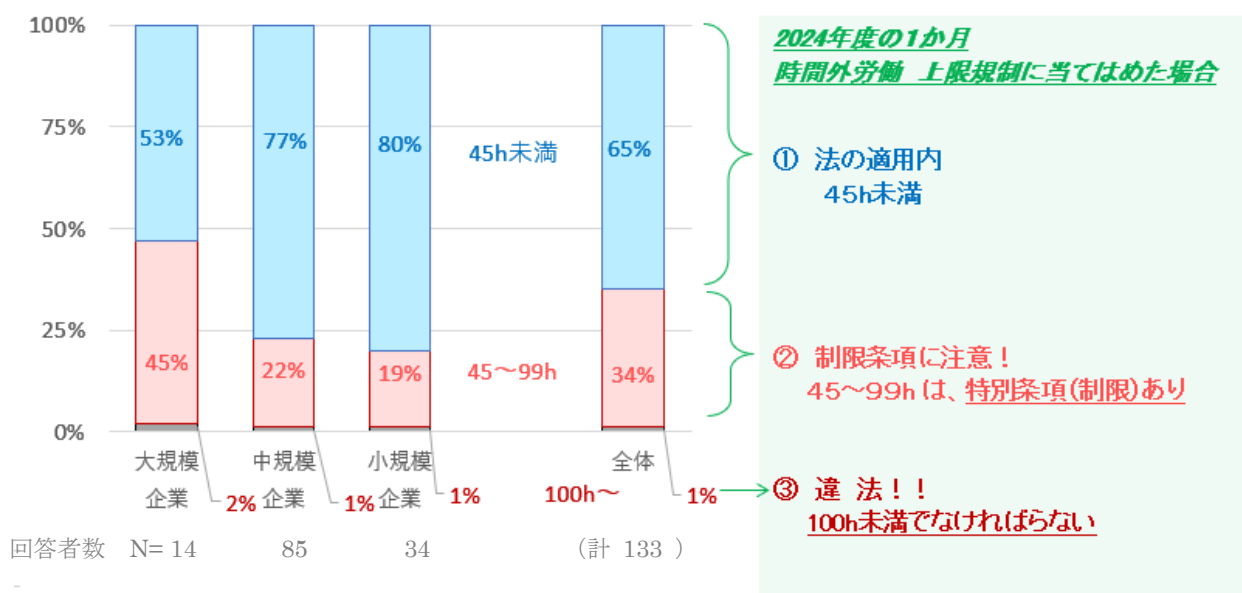
### 1. 「時間外労働」の現状 (月別の場合)

(問8(1)より)

技術系従業員の時間外労働の分布状況に対し、2024年度からの時間外労働の規制条件を適用した場合、

- ・ 大規模企業では----- 45% が制限対象となり注意が必要である。
- ・ 中規模企業では----- 22% ”
- ・ 小規模企業では----- 19% ”

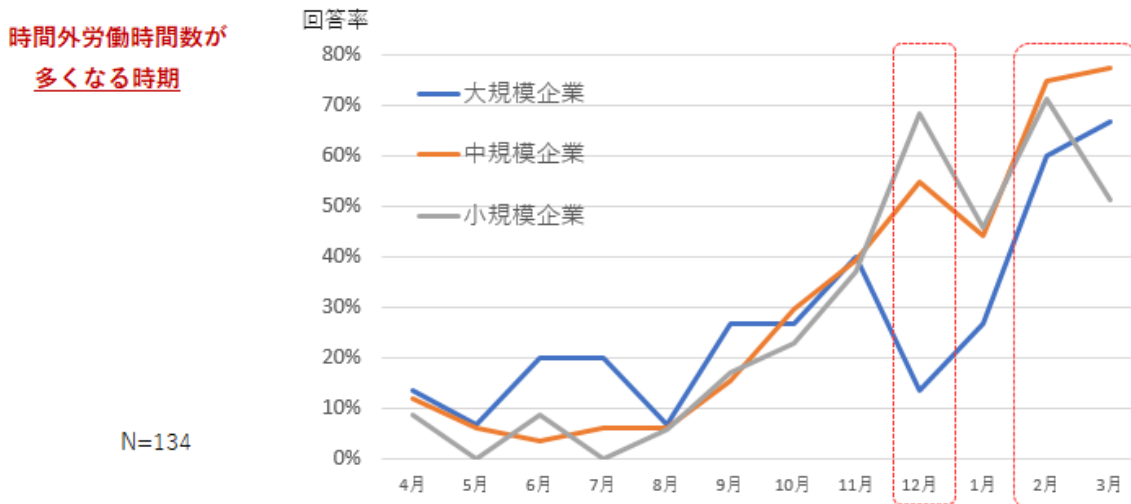
また、100時間越えの違法は、規模に関わらず 1% 対象者である。



## 2. 時間外労働が多く発生する時期

( 問 8 ( 2 ) より )

時間外労働が多く発生する時期は、年末、年度末に集中している。このことから現場担当者の業務量の平準化が求められる。



## 3. 時間外労働増を引き起こす主要因とそれによる負担増となっている対象業務

( 問 11 より )

過去の調査から、主要因は「しわ寄せ」であり、加えて「多くの提出書類」、「人員配置難」により担当者の時間外労働の増大を引き起こしており、今回の調査ではさらに深掘し、その業務内容を求めた。

主要因の発生の抑制策および負担増となる業務の軽減・支援策が求められる。その詳細結果は次の通り。

### (1) 前工程工事の遅れによる「しわ寄せ」がもたらす、大きな負担増となる業務事例 (内容) とはどのようなものか。

該当する負担増となる上位2つの業務にチェック願います

単位：回答選択率

| 「しわ寄せ」がもたらす、大きな負担増となる業務事例                       | 大規模企業 | 中規模企業 | 小規模企業 | 回答選択率      |
|---|-------|-------|-------|------------|
| 1) 作業員の再手配と調整<br>( 稼働人員計画の見直し、協力企業との契約変更 等 )    | 67%   | 65%   | 50%   | 67%<br>65% |
| 2) 安全施工指示の見直し<br>( 各施工ごとの進捗確認とその指示事項の見直し )      | 13%   | 8%    | 0%    | 13%<br>8%  |
| 3) 工程見直しによる他工事業者との再調整<br>( 再連絡、書類再提出、再承認手続き 等 ) | 73%   | 72%   | 76%   | 73%<br>72% |
| 4) 機器・材料等の手配・納期・搬入・据付 の変更対応                     | 20%   | 31%   | 29%   | 20%<br>31% |
| 5) 各機器設備の試験調整の再検討<br>( 試験手順、他業者との調整 等 )         | 13%   | 5%    | 21%   | 13%<br>5%  |
| 6) 竣工検査立会の再調整                                   | 0%    | 0%    | 0%    | 0%         |
| 7) 竣工図書の作成<br>( 施工が優先され種類整理に手が回らない )            | 13%   | 15%   | 12%   | 13%<br>15% |
| 8) その他  | 0%    | 1%    | 3%    | 0%<br>1%   |

※ は、多数(50%超)選択事項を示す。

回答社数(N) 15 88 34 (計 137)

(2) 施工中、施主・設計事務所・元請業者への提出書類のうち多くの時間を費やしたものはどのようなものでしょうか。

該当する書類・資料のうち、上位3つにチェック願います

単位：回答選択率

| (2) 提出書類のうち多くの時間を費やしたもの | 大規模<br>企業 | 中規模<br>企業 | 小規模<br>企業 |  |  |
|-------------------------|-----------|-----------|-----------|--|--|
| 1) 各会議の議事録              | 20%       | 19%       | 29%       |  |  |
| 2) 施工計画書                | 47%       | 49%       | 35%       |  |  |
| 3) 施工体制報告書              | 20%       | 12%       | 15%       |  |  |
| 4) 工事打合せ簿               | 13%       | 23%       | 24%       |  |  |
| 5) 材料確認書                | 0%        | 3%        | 6%        |  |  |
| 6) 安全教育訓練実施資料           | 7%        | 13%       | 15%       |  |  |
| 7) 工事履行報告書（工程管理）        | 7%        | 15%       | 15%       |  |  |
| 8) 関係機関との協議資料           | 53%       | 19%       | 18%       |  |  |
| 9) 出来高査定表/請求書           | 7%        | 10%       | 9%        |  |  |
| 10) 工事写真                | 27%       | 47%       | 71%       |  |  |
| 11) 施工図・機器承諾図           | 73%       | 73%       | 53%       |  |  |
| 12) その他                 | 0%        | 2%        | 3%        |  |  |

※ は、多数(50%超)選択事項を示す。

回答社数(N) 15 86 34 (計135)

(3) 「人手不足」により人員配置を予定通り出来なくしているところですが、どのような点で苦勞されておられますか。

該当する主な事由の上位2つにチェック願います

単位：回答選択率

| 「人手不足」による人員配置難に関わる苦勞  | 大規模<br>企業 | 中規模<br>企業 | 小規模<br>企業 |  |  |
|---|-----------|-----------|-----------|--|--|
| 1) 前担当工事での工期遅延により、次の予定している工事に配置できない                             | 20%       | 20%       | 15%       |  |  |
| 2) 少子高齢化により入職者数以上の多くの経験者が離職し、工事経験を有する技術者が減少（最近、必要とされる人材を配置できない） | 67%       | 44%       | 62%       |  |  |
| 3) 追加変更工事等に対し、それに見合う十分な追加予算が得られない（予算の制約により応援者の費用がもらえず増員できない）    | 27%       | 9%        | 0%        |  |  |
| 4) 施工管理技術者の現場専任（多忙な現場への一時応援に出せない）                               | 33%       | 37%       | 26%       |  |  |
| 5) 多くの工事で同時期（年末・期末等）に繁忙期、竣工が重なる                                 | 33%       | 64%       | 74%       |  |  |
| 6) 最近の工事の大型化（以前に比べ多数の工事担当者を配置する必要あり）                            | 13%       | 13%       | 9%        |  |  |
| 7) 最近の改修工事の件数増（それぞれの工事に必ず工事担当者が必要）                              | 7%        | 8%        | 21%       |  |  |
| 8) その他  | 7%        | 1%        | 3%        |  |  |

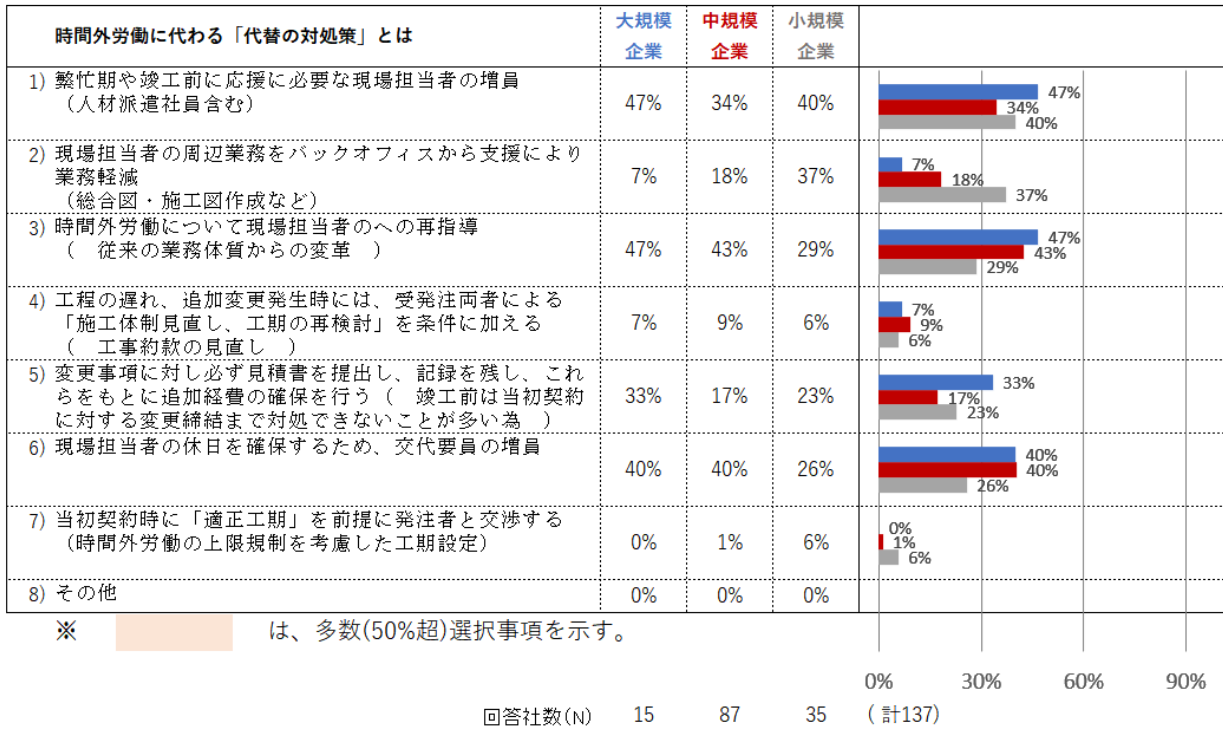
※ は、多数(50%超)選択事項を示す。

回答社数(N) 15 87 35 (計137)

(4) 2024年度より時間外労働の上限規制が適用されにあたり、時間外労働に代わる「代替の対処策」とは

優先して対処すべき当該策の上位2つにチェック願います

単位：回答選択率



4. 時間外労働の是正につながる会員取組みの事例 等

(問13より)

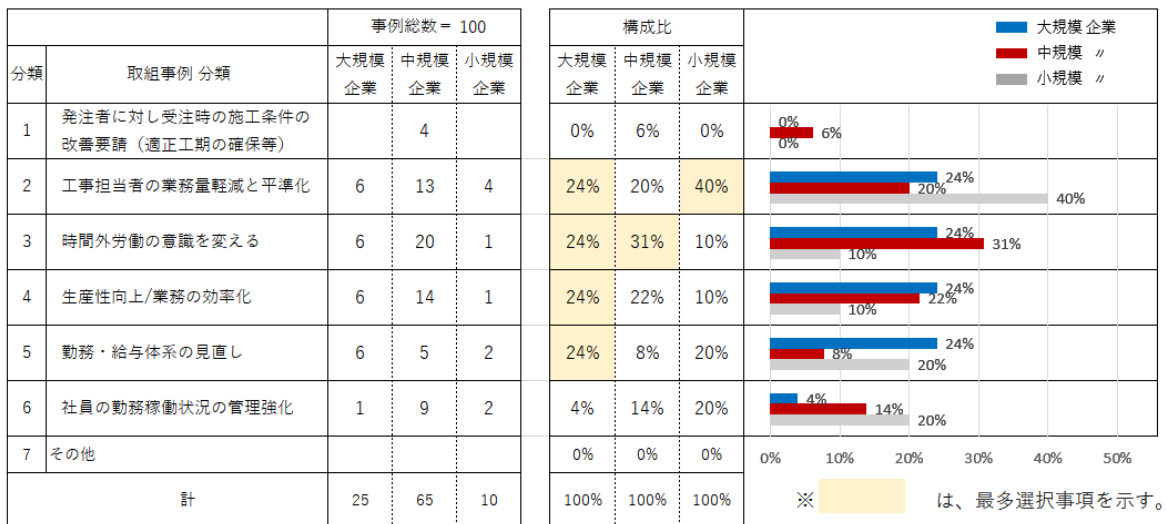
取組みを分類し、多くあった事例は、

- ・「時間外労働の意識を変える」
  - ・「生産性の向上 と 業務の効率化」
  - ・「業務量の軽減と平準化」
- } であった。

また、詳細の取組事例は、別紙「補足資料1」の通り。

( これらを参考にし、時間外労働の是正の取組み進めていただきたい )

( 会員からの取組事例、意見を整理し下記のとおりまとめました )



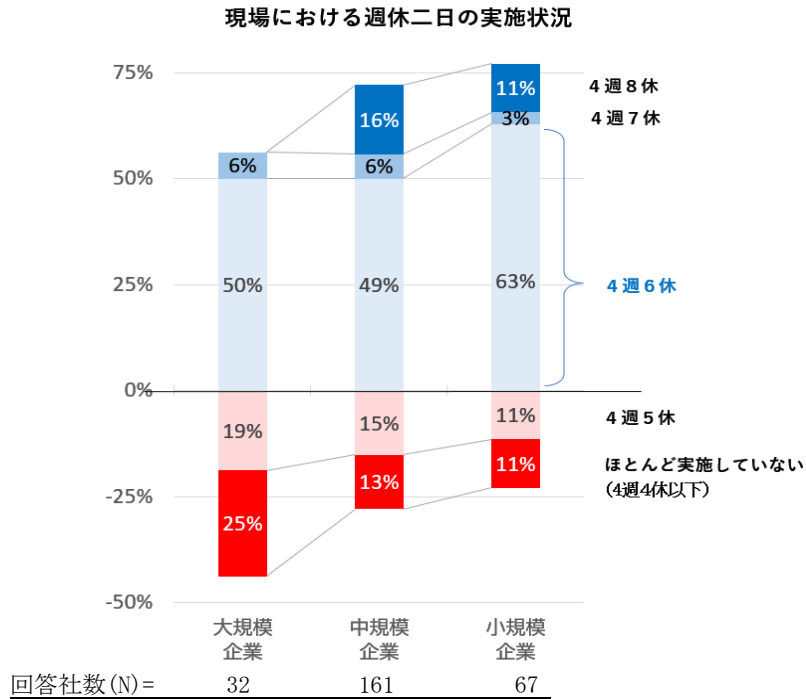
回答社数 (N1) = 10 35 8 (計53)  
事例数 (N2) = 25 65 10 (計100)

### III. 週休二日制 について

#### 1. 協会の働き方改革の基本方針での中間目標について

(問9より)

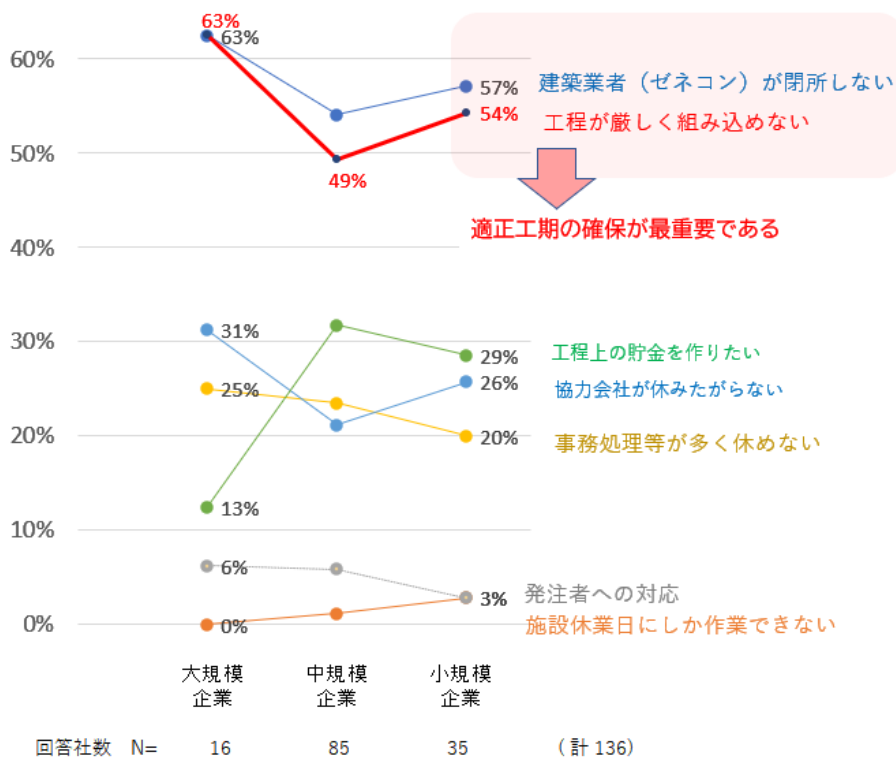
当初は、「2020年度に4週6休の定着」を中間目標としたが、現状でも未達である。



#### 2. 週休二日制が進まない理由

(問10より)

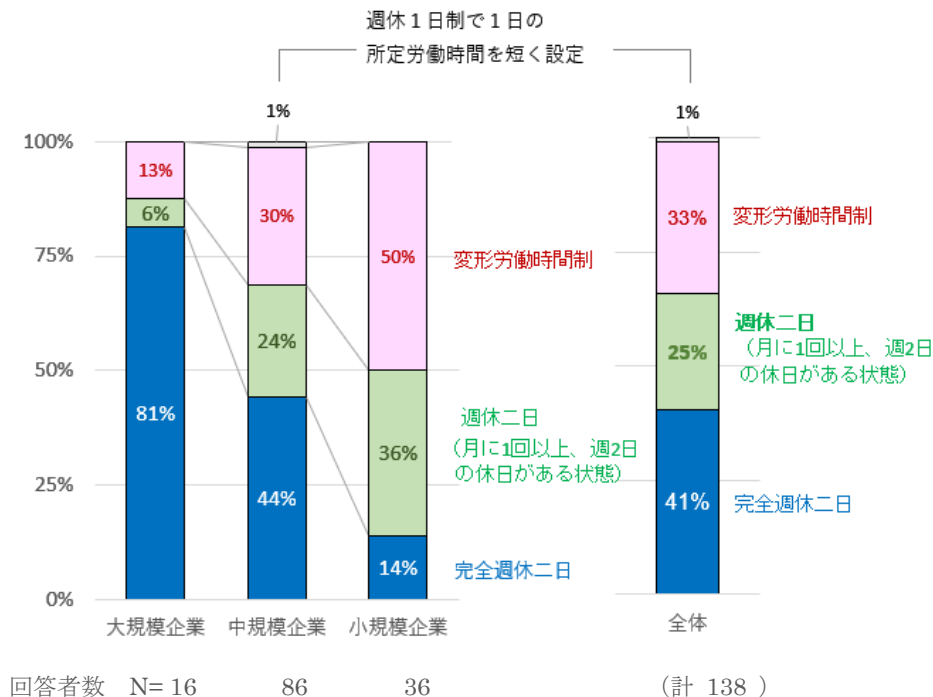
「週休二日を前提とした適正工期の確保」が、週休二日の定着のカギと考えられる。



### 3. 就業規則上の休日の扱い

(問6より)

「完全週休二日」の採用は、大規模企業では大半を占めるが、規模が小さくなるにつれ減り、一方で「変形労働時間制」「週休二日」が増える状況である。



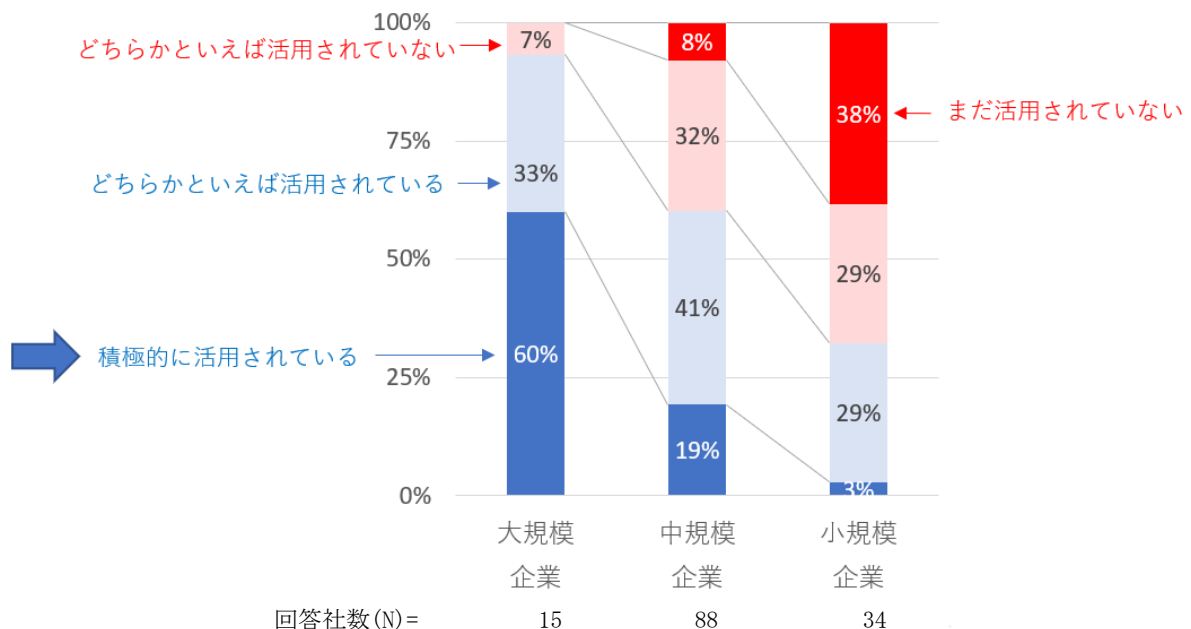
### IV. 生産性の向上 について

(問14より)

現場担当者の業務軽減につなげるため、生産性向上は欠かせない。最近の ICT 活用の中で注目されている「WEB 会議」、「遠隔臨場」、「情報共有システム (ASP)」、そして他の「ICT の活用事例」についての実状を調査し、結果は次の通り。

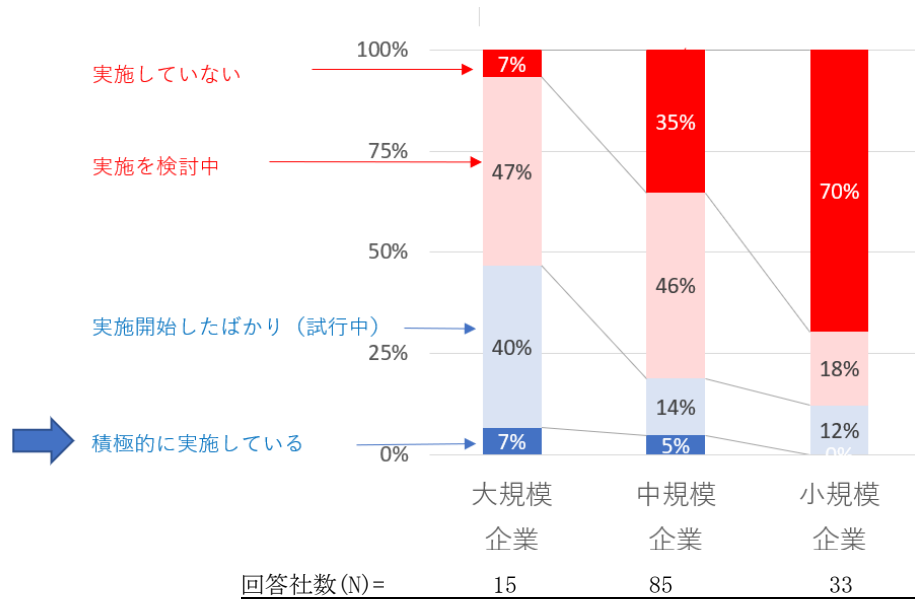
#### 1. WEB 会議システム

大規模企業では概ね活用が進んでいるが、全体としては今後拡大の模様。



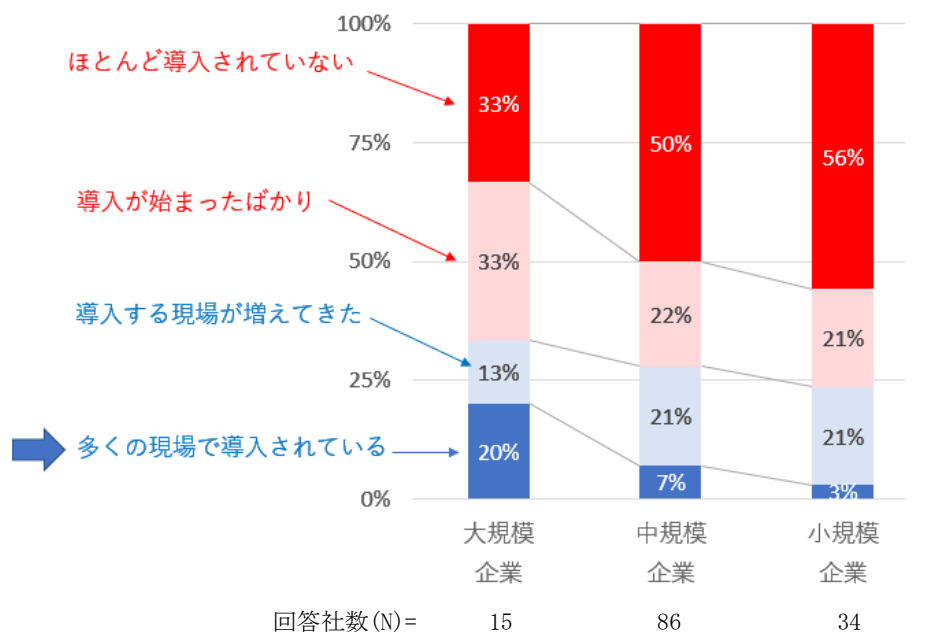
## 2. 遠隔臨場

全体的に活用が始まったところである。



## 3. 情報共有システム（ASP）

ASPソフトの現場導入の多くは、元請会社（特にゼネコン）となることから、導入にばらつきがあるが、今後活用が求められる。



## 4. 現場業務における IT 活用状況

会員活用事例は、別紙「補足資料 2」を参考にしてください。

|       |       |             |             |
|-------|-------|-------------|-------------|
| 大規模企業 | ..... | 回答社数 = 11 社 | 事例件数 = 25 件 |
| 中規模企業 | ..... | ” 28 社      | ” = 52 件    |
| 小規模企業 | ..... | ” 7 社       | ” = 9 件     |
| 計     |       | 46 社        | 86 件        |

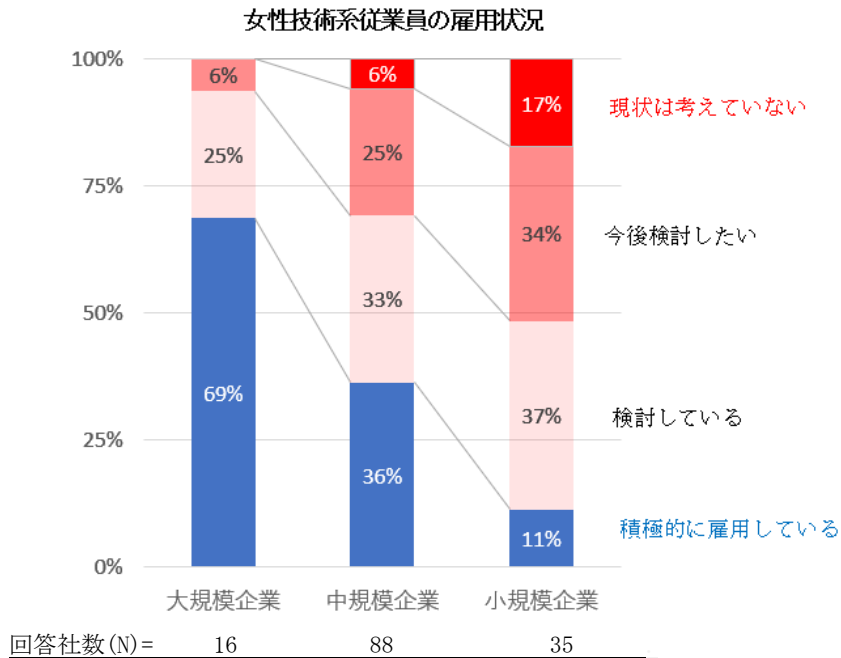


## V. 多様な人材確保 について

### 1. 女性技術系従業員の雇用状況

(問 15 より)

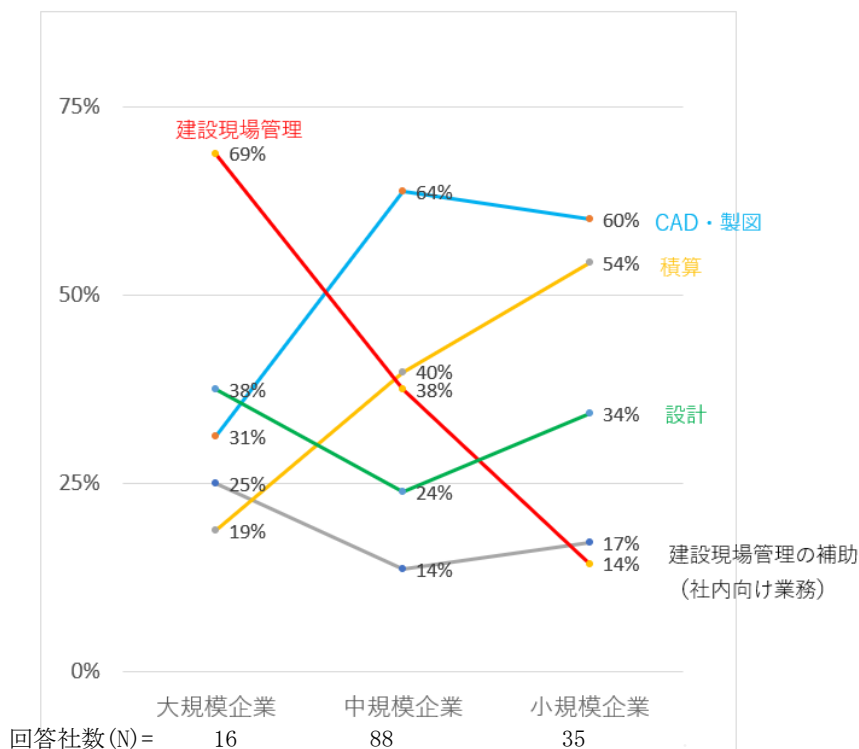
大規模企業から積極的な女性技術系従業員の雇用が進みつつある。



### 2. 今後、女性技術系従業員に期待する担当業務

(問 16 より)

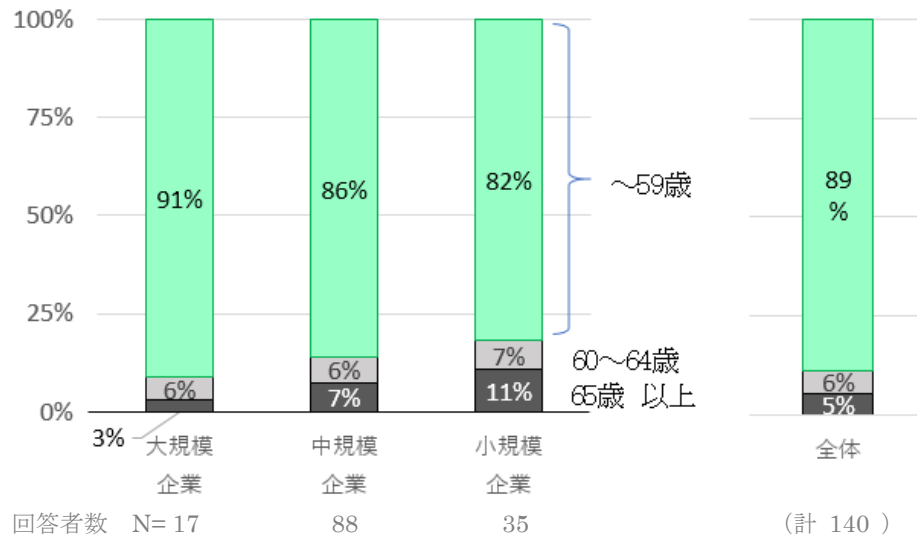
過去より CAD のオペレーター業務には多くの女性が携わってきたが、近年では現場サイドの業務(建設現場管理、積算、積算等)への期待が高まっている。



### 3. 高齢者の活用について

(問3より)

60歳以上の従業員を雇用している割合は全体で約1割(11%)であり、従業員の少ない規模の会社ではその割合が高くなっている。



以上

### 問13. 長時間労働の是正につながる取組みの事例 等

貴社で検討中または既に行われている「長時間労働の是正につながる取組みの事例」等ございましたら是非お教えてください。

#### 取組事例（ 課題の対策別 ）

事案件数= 25  
回答社数(N)= 10

#### <大 規模企業>

##### 1.発注者に対し受注時の施工条件の改善要請☑適正工期の確保等)

---

---

---

---

---

---

##### 2.工事担当者の業務量軽減と平準化

- 1) ・現場竣工時にリフレッシュ休暇の取得。
- 2) ・定期的に会議を開催。
- 3) ・業務分担し作業を効率化。
- 4) ・現場を支援（バックアップ）する専門部署を設置し、現場繁忙期の業務サポートを行うことにより、現場業務に係る労働時間の平準化に取り組んでいる。
- 5) ・現場業務の効率化と生産性向上のため、社員教育の充実化とICTの積極的な活用を実施。
- 6) ・組織全体の取組み。

##### 3.時間外勤務の意識を変える

- 7) ・サテライトオフィス勤務等の有効活用。
- 8) ・共有化。
- 9) ・社内時間外目標管理時間を設定し、個別にフォローを行っている。
- 10) ・ICTの活用。
- 11) ・業務支援ツールの導入による業務効率化（省力化）のほか、派遣社員等の増員により業務を分散し現場業務の負担軽減に取り組んでいる。
- 12) ・ICT機器の活用。

事案件数= 65  
回答社数(N)= 35

#### <中 規模企業>

##### 1.発注者に対し受注時の施工条件の改善要請☑適正工期の確保等)

- 1) ・長時間労働と時間外労働が紐づくものとして、休日に依頼される工事を平日で行うような発注者との交渉を行っている。
- 2) ・工事受注量の調整。
- 3) ・特に発注者の指定がない限り、施工計画段階で休日及び夜間作業は設定しない。
- 4) ・お客様及び発注者の方々と現場の作業時間の厳守等の調整。

##### 2.工事担当者の業務量軽減と平準化

- 5) ・周辺業務のバックオフィスからの支援。
- 6) ・現場担当者の周辺業務をバックオフィスから支援する部署を設置。
- 7) ・対象者となる職種の業務を一部分担・分業にて後方から支援している。
- 8) ・CADオペ、工事業務等の業務を現場で支援する派遣社員の導入。
- 9) ・45時間超/月の全ての社員には、健康状況の確認と対策を報告させているが、遠方の現場であったり、夜間作業の多い部署においては困難な状況です。
- 10) ・現場担当者の増員による業務負担の軽減。
- 11) ・建設ディレクター（バックオフィスによる業務応援・工事管理等）の養成・採用。
- 12) ・業務分散化の検討。
- 13) ・属人化の範囲を少なくするよう、業務の洗い出しを行っています。
- 14) ・書類、図面等作成時期に協力業者の現場作業立ち会いが重なった場合、主任技術者及び監理技術者以外の現場技術員（直営電工）により現場作業立ち会い写真撮影等を行いフォローする。
- 15) ・施工支援部門を設けて施工管理者への負荷の偏りを防ごうと取り組んでいる。
- 16) ・工務事務員の採用。
- 17) ・繁忙現場への応援等、柔軟な人員配置。

##### 3.時間外勤務の意識を変える

- 18) ・週3回のノー残業デー。
- 19) ・しかしながら、年度末のみならず45時間を超過する月が6ヶ月以上の社員がいる。
- 20) ・年間休日の計画的な増加。
- 21) ・働き方改革のための委員会設立。
- 22) ・毎週、火曜日と木曜日をノー残業日に設定している。
- 23) ・ノー残業デーの実施。
- 24) ・ワークライフバランス委員会により、労働時間削減策を検討。
- 25) ・ノー残業デーの実施。
- 26) ・ノー残業デーの導入による時短意識の醸成。
- 27) ・終業時刻に夕礼を行い、終業後の予定を各自発表することで労働時間への意識付けや速やかに帰宅するよう促す。
- 28) ・超過労働時間が多い社員の上司（管理者）に、超過労働時間を定期的にメールで自動配信する仕組み。
- 29) ・ノー残業デイの実施。

#### 補足資料 1

事案件数= 10  
回答社数(N)= 8

#### <小 規模企業>

##### 1.発注者に対し受注時の施工条件の改善要請☑適正工期の確保等)

---

---

---

---

---

---

##### 2.工事担当者の業務量軽減と平準化

- 1) ・現場管理以外の作業（書類等）は本社で請け負い、できるだけ作業軽減に努めている。
- 2) ・本社と現場の工程管理の相互チェックと必要に応じた人員の再配置。
- 3) ・社内現場管理者がお互いに、協力、応援している。
- 4) ・工事書類の作成等をバックオフィスからの支援。

##### 3.時間外勤務の意識を変える

- 5) ・積極的に有給休暇等を取るよう呼び掛けている（最近では年配の社員も取るようになってきた）。



## 問14. 現場業務におけるIT活用状況

(4) 貴社におかれて、上記以外のIT機器・システムの活用事例をお教えください

補足資料2

### 大規模企業 の事例

回答社数= 11

事例数= 25

- 1) ・ iPad、スパイダープラスによる施工管理。
- 2) ・ Web会議システム。
- 3) ・ 遠隔臨場。
- 4) ・ Teamsを利用。
- 5) ・ 情報共有システム。
- 6) ・ CheX(図面、工程表、作業指示書、工事写真など様々な文書を電子化し、iPadから閲覧・共有できる建設業向けクラウドサービス)。
- 7) ・ SpiderPlusを利用。
- 8) ・ 現場支援ツール (スパイダープラス)。
- 9) ・ 図面・現場管理。
- 10) ・ 工事写真用アプリケーション (SpiderPlus)。
- 11) ・ 現場帳票電子化アプリケーション (i-Reporter)。
- 12) ・ クラウドサーバー (box) の導入・活用により、現場にてモバイル端末 (タブレット等) を活用し、現場業務の効率化による生産性の向上に向けた取組みを実施している。
- 13) ・ 現場業務効率化アプリの活用。
- 14) ・ スパイダープラス。
- 15) ・ モバイル端末を使って現場施工写真管理。
- 16) ・ 図面閲覧 (スパイダープラス等)。
- 17) ・ PCの遠隔操作 (スブラッシュトップ)。
- 18) ・ チャット、メール。
- 19) ・ Web会議等のコミュニケーションツール。
- 20) ・ Office365) の利用。
- 21) ・ Boxでのデータ共有。
- 22) ・ タブレット端末 (アプリ) の利用のみで、本格的なIT活用には至っていない。
- 23) ・ 測定機器とiPadの無線通信による記録。
- 24) ・ 社内だけではなく、協力会社を含めたプロジェクト管理共有システムを導入している。
- 25) ・ 図面や写真等の管理をクラウド化 (テリオクラウド利用)。

### 中規模企業 の事例

回答社数= 28

事例数= 52

- 1) ・ コミュニケーションツール。
- 2) ・ 測定機器。
- 3) ・ 電子黒板の運用。
- 4) ・ I-padの導入。
- 5) ・ 弊社だけの取組は無意味なので監理全体(現場)の対応が必需。
- 6) ・ iPad、スマートフォン。
- 7) ・ PC遠隔操作ソフト。
- 8) ・ 電子回覧承認ソフト。
- 9) ・ 出退勤管理アプリ。
- 10) ・ 現場内の防犯カメラの映像を外部から監視。
- 11) ・ 緊急対応や、周知事項についてスマホにて情報共有。
- 12) ・ スマホを配布して「社内イントラ」「経費精算」「勤怠申請」に活用している。
- 13) ・ 週間業務計画の共有。
- 14) ・ 応援・来援の実施。
- 15) ・ 電子黒板の利用。
- 16) ・ 施工管理ソフトウェアの導入。
- 17) ・ サイボーズofficeを活用して、カスタムアプリにデータを集め情報共有している。
- 18) ・ 今後も顧客管理及び技術資料を集め、データ活用文化を社内に広めていきたい。
- 19) ・ オンラインストレージ。
- 20) ・ 名刺管理ツール。
- 21) ・ 写真管理ソフト。
- 22) ・ 電子黒板ツール。
- 23) ・ チャットワーク (現場と事務所の情報共有)。
- 24) ・ メラキ (事務所とリモート接続)。
- 25) ・ スマホによる労務管理。
- 26) ・ タブレットによる現場管理。
- 27) ・ 施工管理システムの導入。
- 28) ・ 全社員スマートフォン貸与。
- 29) ・ (一部) タブレット端末貸与。
- 30) ・ LINE WORKS (情報共有) システム導入。
- 31) ・ メールスマホ転送。
- 32) ・ スケジューラーの活用・共有。
- 33) ・ ZOOMによる社内会議。
- 34) ・ iPadを使用した品質管理。
- 35) ・ グリーンサイトへの登録。
- 36) ・ スパイダープラスの試験的運用等。
- 37) ・ 「スパイダープラス」による施工写真の管理。
- 38) ・ スパイダープラスによる施工管理。

### 小規模企業 の事例

回答社数= 7

事例数= 9

- 1) ・ iPadを使用し、現場で図面等の書類を閲覧できるようにしている。
- 2) ・ 工事写真の撮影をしている。
- 3) ・ スパイダープラスをiPadで使用している。
- 4) ・ タブレット端末での施工管理。
- 5) ・ 社内検査システムをアプリに切替たことで、検査後の入力作業が省力化できた。
- 6) ・ 現場に限らず全ての業務のペーパーレス化を実現すべく努力中。
- 7) ・ Teams等のアプリケーションシステムの活用。
- 8) ・ zoomを活用し、本社と現場とで会議をしている。
- 9) ・ 蔵衛門padの導入 (=工事写真業務を効率化できる電子小黒板)。

